

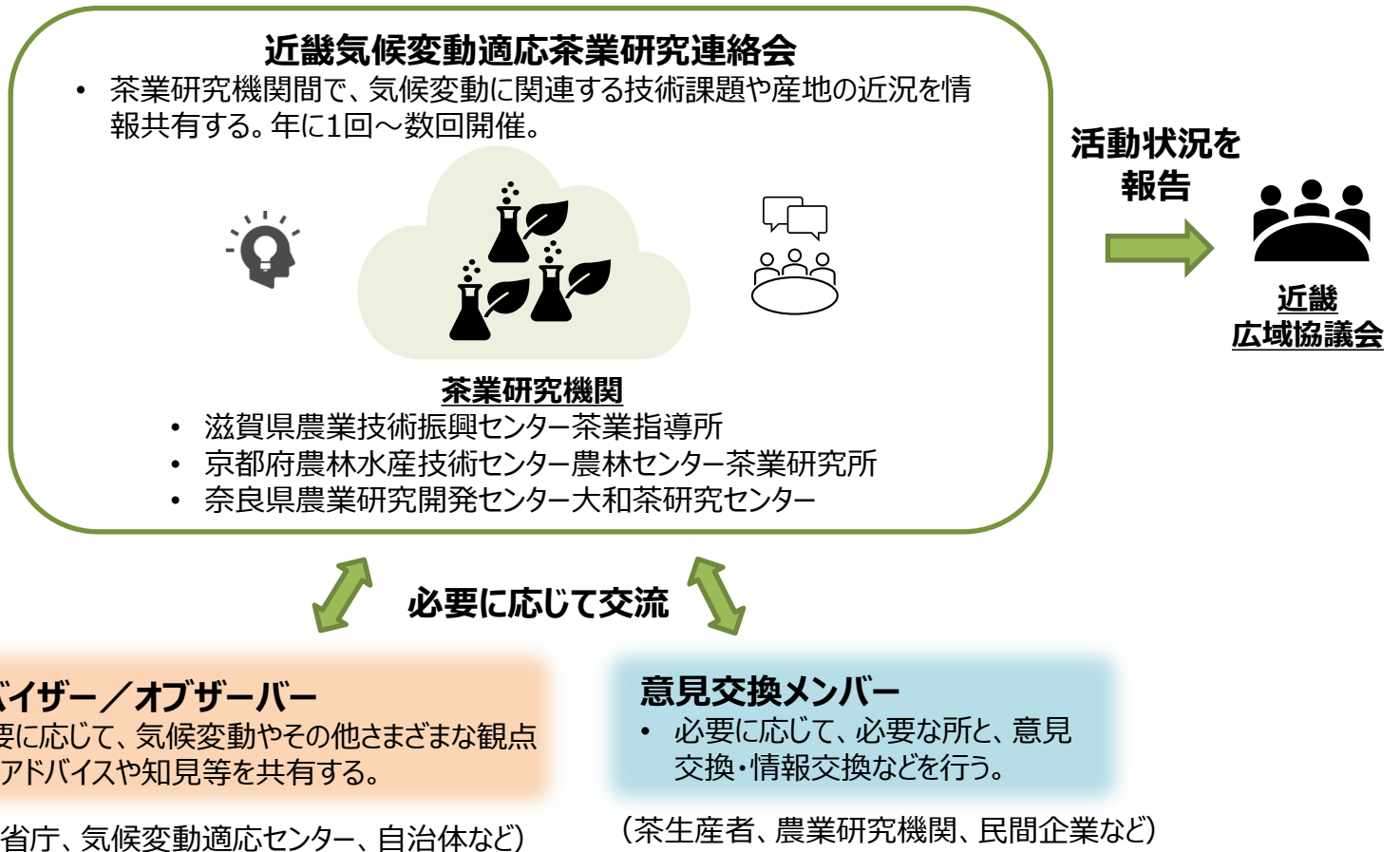
近畿気候変動適応茶業研究連絡会 活動報告

令和7年2月26日

一般財団法人日本気象協会

近畿気候変動適応茶業研究連絡会 令和6年度活動概要

適応アクションの実施主体である「近畿気候変動適応茶業研究連絡会」（茶業研究機関）の活動状況について、事務局（近畿地方環境事務所、日本気象協会）よりヒアリングを実施する。



近畿気候変動適応茶業研究連絡会 ヒアリング概要(1/2)

令和6年12月23日(月)に実施した、近畿気候変動適応茶業研究連絡会（以下、連絡会）へのヒアリング概要を以下に記載する。

■連絡会の活動状況について

- 今年度は令和6年12月4日に奈良市ならまちセンターにて、計14名で開催した。
京都府：7名、滋賀県：3名、奈良県：4名
- 各府県の今年度の研究内容と、今年度の気象及び新芽の生育状況について議論した。
- 今年度は**防霜扇のない所を中心に晩霜害があった他、夏の高温でお茶の秋芽の生育が抑制されたこと、二番茶の収量が暑さの影響で非常に少なかったことが話題にあがった。**
- その他にも、**茶部門の若手後継者育成や品種の動向、有機茶の生産、碾茶の動向、資材の高騰対策**などに関しても意見交換を実施した。

<今夏の暑さについて>

- 二番茶の新芽の生育時期から高温になり、葉焼けの影響が大きかった。
- 秋季も高い気温が継続したことで普段よりも長く生育が続き（開葉数が多く）、管理方針に頭を悩ませた。
- 暑さの他、今夏は降水量が極端に少なく、根があまり張っていない木や幼木が枯れてしまった。

■アドバイザー／オブザーバー、意見交換メンバーとの交流の有無（または今後の予定）

- まだ検討に至っていないが、今後、アドバイザー等を加えることは考えられるかもしれない。

近畿気候変動適応茶業研究連絡会 ヒアリング概要(2/2)

■ 茶業研究機関同士の普段の連携状況

- 普段は会議（年1,2回）や品評会（年1回）で顔を合わせた際に少し話す程度である。現状、連絡会以外で3府県の研究機関が話す特別な機会はない。

■ 適応策に関する研究の令和6年度成果情報

- 夏季の干ばつに強い品種の育成を行っている。（京都府）
- 現在とられている対策には、散水氷結法であれば潜熱を利用するといった裏付けとなる理論がある。新たな凍霜害対策を開発するにはそのような理論が必要で、現在、模索しているところである。（京都府）